

東京湾再生官民連携フォーラム

⑨ 東京湾の窓

東京湾の窓PT長 芝原 達也

(谷津干潟自然観察センター指定管理者 谷津干潟ワイズユース・パートナーズ)

東京湾の保全を進める主体は誰でしょう。行政担当者？研究者？技術者？あなたもそれぞれ役割があります。流域人口約3000万人と言われる市民の参画が重要です。

しかし、東京湾を身近に感じ、東京湾の生態系の恩恵を受けていると実感できる方はどれほどいらっしゃるのでしょうか。また東京湾再生の課題を理解している方はどれほどいらっしゃるのでしょうか。

本プロジェクトの趣旨は、東京湾に関連する既存の施設や団体がつながり、それぞれが東京湾と市民を結び、東京湾の窓として機能していくにはどのような取り組みをしていけば良いのかを検討し、提案をまとめることです。

本プロジェクトの発足は、昨年10月に開催された東京湾大感謝祭での、東京湾の環境学習に関わる施設や団体の交流会がきっかけでした。集まったのは、東京湾の干潟等を自然の体験や環境学習で活用する機会を提供す

設置した公園・施設のスタッフ、東京湾で活動する市民団体のメンバー、大学教員、NGOスタッフ、新聞記者、釣具メーカー社員など多様なメンバー13名が参加しています。

成、④東京湾の体験のニーズの掘り起こしの必要性等です。①④については、様々な娯楽が社会に溢れる中において、東京湾を体験する活動はアピールできていないのか、情報発信をしてもそれを求める人がどれだけののか、ニーズの掘り起こしにも必要、という議論がありました。

今後の展望ですが、2020年にオリンピック・パラリンピック東京大会が開催されます。内外に向けて、東京大都市圏を後背地とする東京湾と市民の共生をアピールするチャンスです。本プロジェクトでは、2018年までに以下の取り組みを進め、提案をまとめていく予定です。

②東京湾の保全に関連する施設や団体等で活用できる教材(展示教材、パンフレット)形態についてはプロジェクトでの検討課題)の検討と制作。

③施設の共通コンテンツの取り組みを利用した連携推進。
④東京湾の文化的資源の再構築・価値化、利用の推進。

2016年はじめます 東京湾の窓PT

東京湾にも干潟があるよ。楽園干潟施設のネットワークをつくらう!

東京湾は自然・文化の宝庫、今までの歴史・文化・自然...を紐解きながら、その資源をまとめて活用を広げます。

干潟の埋め立てなどの開発によって、東京湾と接する機会は以前より減り、身近な海として東京湾を実感できる方は決して多いとは言えないのが実状ではないでしょうか。

本プロジェクトの発足は、昨年10月に開催された東京湾大感謝祭での、東京湾の環境学習に関わる施設や団体の交流会がきっかけでした。集まったのは、東京湾の干潟等を自然の体験や環境学習で活用する機会を提供す

る施設や団体の皆さんです。東京湾のために何か協力してできないか、そんな思いを持った人たちが集まりました。この会合で東京湾再生官民連携フォーラムのプロジェクトとして活動することを決め、今年3月に発足しました。プロジェクトには自治体が

東京湾の窓PT

東京湾の施設や団体がつながり、おどかなる海を創ろう!

窓をひらくと、すぐそこに生きものいっぱい東京湾!

- 1 大森海苔の上をとる (大森区)
- 2 東京湾野鳥公園 (大田区)
- 3 葛西臨海公園・鳥取園 (江戸川区)
- 4 瑞雲三笠酒を大飲にする会 (瑞雲町)
- 5 行徳野鳥観察会の会 (行徳町)
- 6 谷津干潟自然観察センター (習志野市)

東京湾大感謝祭で展示した東京湾の窓PTポスター



東京湾大感謝祭での東京湾の窓PTコーナー (平成28年10月23日)